

令和2年1学期始業式（放送） あいさつ要旨

*始業式や終業式では、みなさんの中に何かのかけらが残るような話をしていきたいと思っています。

*今回お話ししたいこと

外国の、とある美術学校で、興味深い実験が行われました。

1) 先生はまず、クラスの生徒たちを、AとBのふたつのグループに分けました。

2) Aグループの生徒たちへの連絡。

「今から作品を作ってもらいます。とにかくたくさん作ってください。皆さんの評価は、その作った作品の『数の多さ』

によって行います」

Bグループの生徒たちへの連絡。

「皆さんは、数は少なくてよいので、ひたすら良い作品を作ってください。皆さんの評価は、作った作品の『質の高

さ』によって行います」

つまり、

Aグループは、作品の数が多ければ多いほど、良い成績がもらえます。

Bグループは、最高傑作をひとつ作り、その作品の出来不出来で成績がつけられます。

3) その結果—— 実に奇妙な事実が判明

意外なことに、良い評価を得た作品はすべて、「数の多さ」を求められたAグループの生徒から提出されたもの

でした。

傑作を求められていたはずのBグループの作品はたいしたものもなく、質の高さなんて全然気にしなくて良かった

たAグループの作品に見るべきものが多かった。

4) これはなぜでしょう？

この話には、重要な人生の法則が隠されています。

「数の多さ」グループの方が、良い作品を作れた決定的な理由。

それは、「失敗した回数の多さ」にあります。

「数の多さ」グループの生徒は、たくさんの作品を作る中で、何度も失敗を繰り返し、そこから多くのことを学んで

いきました。

「質の高さ」グループの生徒は、最高の作品を作り上げるために、頭の中であれこれ考えすぎて、時間

を無駄にし

てしまい、結局良い作品を生み出すことができませんでした。

良い作品を作るために、生徒がまずやらなければならないのは、「たくさん手を動かすこと」だったのです。

↓

私たちは、何かしないといけないときに、つい考えすぎてしまって、こんな簡単なことを見失ってしまうことがあります。

まずは動く。これがいかに大切かということですね。

今年、皆さんがさまざまなことにチャレンジし、一步一步、成長してくれることを期待しています。

*新型コロナウイルスについて

感染に関する話が次から次へと入ってくる、状況も刻一刻と変わって行く、皆さんには、毎日健康チェックカードをつけてもらうことになります。どうしても不安な気持ちになりますね。

不安を鎮めるためには、「感謝」が一つの方法です。

- ・私たちの健康を守るために、最前線で働いてくれている医療関係者を信頼し、感謝しましょう。
- ・先日まで不足がちだった、トイレットペーパーが店頭で並んでいるのは、製造・配送・販売などに携わる多くの人々の尽力があることに、感謝しましょう。
- ・公共交通機関が、こんななか正確に、安全に運行していることも、整備や運行に携わる多くの人々の尽力があることに感謝しましょう。
- ・いつも私たちのことを思い、心配し、手助けをしてくれる家族や友人がいることに、改めて感謝しましょう。
- ・できないことを嘆くより、できることを喜び、感謝しましょう。

感謝をすることは、メンタルヘルス的にとてもよいということが研究で明らかになっているそうです。差別や憎しみ、偏見からは何も生まれません。困難な時期だからこそ、私たちは心にゆとりをもって、いろいろな人々に思いを巡らせ、感謝や支援、協力をしながら、今を乗り切りましょう。終わります。